

杉の子

奥多摩町立氷川小学校
学校便り 4月号
令和5年 4月 6日発行

御入学・御進級おめでとうございます

校長 松井 良

保護者の皆様、お子様の御入学、御進級おめでとうございます。令和5年度は、12名の新入生を迎え全校児童61名でのスタートです。どの子も入学・進級に伴い、大きな希望を胸に登校してくると思います。学校は子どもの抱く夢や希望を実現させるために、鍛え導いていくことが責務であります。小規模校の利点を生かしながら、一人一人の思いに寄り添い、一人一人に適した支援で、「通いたい学校」「通わせたい学校」と感じていただけるよう努力してまいります。

今年度も、本校の教育活動に温かい御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

新・新しい生活様式

3月13日以降マスク着用が個人の判断に委ねるところとなり、令和5年度スタートの4月から学校の教育活動においてはマスク着用を求めないようになり、5月8日からは新型コロナウイルス感染症の分類が第5類に変更となります。振り返ると、この3年間「新しい生活様式」という名の下、人々の生活は一新しました。

買い物では、店内に入ることのできる人数に制限が設けられ、入口の外に並んで待たされるようになりました。店内に入るために、検温と手指の消毒を求められるようになりました。最小人数で入店しレジには一人で並ぶことが推奨されました。レジの前の床には、並ぶ目安となるソーシャルディスタンスを保つ目印が貼られました。代金やお釣りのやり取りは手渡しではなく、トレイに載せる方法になりました。レジには透明なアクリル板やビニルシートが設けられていて、レジの店員と空間を隔てられています。今では当たり前となったこれらは、コロナ禍前には無いものでした。店員におすすめの商品を尋ねたり、試食コーナーの店員に勧められた商品を今晚のおかずにと選んだりという、人と人との関わりが希薄になった3年間でもありました。

一方、キャッシュレス決済が飛躍的に普及することでレジでの待ち時間が短縮されたり、現金を持ち歩くことが減ったことでお金を落としたり失くしたりするリスクが軽減されたり、支払い用の機械が設置されたことでお釣りの間違いが減ったり、と安心な生活につながることも増えました。

学校生活でも、マスク着用の日常化、黙食、ソーシャルディスタンスを保った座席配置、検温や手指消毒の慣例化、話合い活動・歌唱・息を吐いての楽器演奏等の縮小や中止、友達に触れることや、教材を共有して使うことにも制限が加わりました。コロナ禍前には、給食は机を向かい合わせて談笑しながら食べました。机を並べた隣の子に、のりやハサミを借りることもありました。歌は大きな声で歌うことが賞賛されました。相撲やプロレスごっこなど、友達と積極的にスキンシップをとりました。

やはり一方、この3年間でギガスクール構想の下、一人1台のタブレット型端末の貸与が急速に進み、ICTを活用した教育活動も日々アップグレードされています。オンラインを活用した遠隔授業や授業参観も日常的にできるようになりました。宿題や朝学習でもデジタル教材を活用しています。

これから始まる「新・新しい生活様式」の下では、コロナ禍で学ぶことのできた“よさ”と、コロナ禍前から続く普遍的な“よさ”を組み合わせ、新たな“よさ”を見出していくことが求められるでしょう。新たな価値を創造する力も、学校が育成を目指す予測困難な時代を生きるための大事な力の一つです。今年度も“鍛え、逞しく！”を合言葉に、未来を拓く確かな力の育成に取り組んでまいります。

